

令和5年度 熊本県立球磨工業高等学校 防災教育学習「サバイバル飯炊き」
合評会および地域防災担当者アンケート結果【令和5年9月22日（金曜日）実施】

<合評会>

- ・経験値が大切であり、特に生徒たちは缶の使い方や火を使うことでいい経験になったと思う。やったことがあるとないと大きく違うと思います。
- ・授業の様子より、まず感じた事は缶切りとカッターが使い慣れていない。細かいところまで先生方が指導されていた。できる生徒はできない生徒に手助けをするなど、共助の姿勢が見られた。災害において自助と共助は大切である。授業に集中する姿が伺えた。アルミニウム缶の切りくずを洗うなど、安全面の配慮もできていた。
- ・普段より缶切りの生活がなくなってきている世の中で、よく缶切りが使えていたと思います。災害時の移動に備えて、人吉西小学校から球磨工業南門までの裏道が拡張されることになった。
- ・生徒によりそって多くの先生方が一緒に学ばれる姿が印象的でした。防災教育を継続して変わったことはありますか。（学校側回答、関連組織で連携して取り組むことで、職員全体の防災意識が変わってきている。）
- ・生徒の挨拶がよく、良く育っていると感じた。缶切りの使い方をはじめに教えていたほうがよいのでは。キャンプの経験があれば大きい。
- ・普段から火を使う生徒が少ないと感じた。料理経験の生徒が少ない。地域の横のつながりが大切になってくる。
- ・いかに道具を使わせるかが、大切である。火のつけ方などを工夫させてやることが大切である。
- ・生徒が前向きに授業に参加していた。授業を通して、生徒たちは、アルミ缶がかまどの代わりとして使用できることを知った。このような取組は、中学校のPTA活動でも取り入れたい。
- ・考えて行動する力が大切。缶切り、カッター使用の経験があまりないことは予想していたが、なんでもやってみること、結果災害時に臨機応変に対応する力をつけることが必要。
- ・球磨工業高校の特色を生かした、ものづくりと防災教育のテーマの設定を行った。本校の特色をいかした取り組みであった。災害時に食に対する考え方ができたと感じた。ふりかけを準備している生徒も見受けられたが、ただ米を炊くではなく、平常時にいかに近くできるように緊急時に対応できるかを考えて備えができるのが大切なことではないかと思う。防災教育は平時が勝負であり、災害時における食について考える授業であり、食料の備蓄の重要性を学ぶ機会となった。今後も本校の防災教育につなげて防災意識・備えを高めてほしい。

<地域防災担当者アンケート>

○良好な点

- ・参加した生徒全員が楽しみながら体験し、印象に残る防災教育。
- ・空き缶を加工する際に普段の生活で手にしない缶切り、カッターナイフの使い方を学習。
- ・非常食である缶詰に必要な缶切りの使い方が学べる。
- ・災害時に貴重な水についても説明されている。
- ・米を炊くのに時間がかかるということを学べる。
- ・実践して一からものをつくる経験は、今後いざという時に体が覚えて行動できる。
- ・楽しい防災教育、最高に良いと思う。
- ・カッターの使い方、火の活用と生き残る為の術を学べる。

○生徒の様子

- ・缶切りの使い方を知らない生徒、カッターナイフの使い方が危なっかしい生徒が散見された。
- ・身近にあるものだが珍しい取り組みのため集中していた。
- ・着火に枯葉等を使用したりと工夫していた。
- ・ふりかけを持ってきている生徒もいてやる気を感じた。
- ・ほとんどの生徒が興味がありそうに取り組んでおり、楽しそうだった。
- ・笑顔、会話があり、良い感じだった。

○改善点

- ・個人作業に終始しているので共同作業的な手法も取り入れた方がコミュニティー能力向上に期待できると思われる。
- ・指先等を怪我する可能性が高い作業の前に指を切った時の応急対処（圧迫止血法）要領も指導した方が更にサバイバル（生き残る術）的な教育度が高まるとと思われる。
- ・実習前に炊飯の基本的な技術（水を沸騰させる必要性、蒸らす時間の必要性等）を指導するとアルミ箔を途中で取る行為（赤子泣いても蓋取るな）は無くなると思われる。
- ・米と水も空き缶やペットボトル等の身近なもので計量させてもよいのではないか。

○今後の防災教育を充実させるための助言

- ・同様に汁物もできるのでは。
- ・ストローで吹いてあげると着火しやすいのでは。
- ・缶詰のシーチキンのオイルもロウソクみたいに使える。

○その他、気づかれたやご意見

- ・挨拶がよくできていて気持ちよかった。
- ・私も勉強になりました。ありがとうございました。